

ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保等に関する意見

意見提出元	朝日放送株式会社
-------	----------

意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望	
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題	
(3) 関連する国内外の動向と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワイヤレスブロードバンドシステムの環境を構築するためには、相当規模の周波数確保が必要であり、国際的な動向を踏まえた周波数の移行・再編を実施し、新たな周波数を確保しなければならない。周波数の移行・再編にあたっては、既存のシステムの社会的役割や重要性を十分に考慮して実施されるべきものである。 ・ 800MHz帯では、映像FPUや特定ラジオマイクなどが、重要な伝送手段として活用されている。映像FPU（770～806MHz）は、波長が長く見通し外伝送が可能な800MHz帯の特性を生かして、テレビ素材伝送を行う無線システムであるが、特定ラジオマイク／デジタル特定ラジオマイクと周波数を共用しており、放送事業者と特定ラジオマイク利用者連盟加盟者の間で組織的な運用調整を行い、干渉妨害を未然に防ぐことで、周波数の有効利用を図っている。 ・ 特定ラジオマイク／デジタル特定ラジオマイクは劇場、ホールなどだけではなく、放送業務用としても必要不可欠な設備である。デジタル特定ラジオマイクについては総務省情報通信審議会情報通信技術分科会小電力無線システム委員会において報告された「特定ラジオマイクの高度化に向けた技術的条件」に従い、国内メーカーによって、今年5月商品化された。これにより800MHz帯での更なる電波の有効利用が促進される。 ・ 800MHz帯映像FPUは、遮蔽物が多い場所での伝送や移動しながらの中継等において最も威力を発揮する。マイクロ波帯映像FPUやSNG（Satellite News Gathering）による伝送が困難な場合にも確実な伝送を行うことが可能であり、報道中継／情報番組中継／スポーツ中継などテレビ番組制作全般に幅広く利用できる。特に、マラソンなどのロードレース中継では800MHz帯の伝搬特性によって、ビルの乱立する都市部においても欠落区間のないシームレスな番組構成が可能となっており、今後とも放送事業者にとって必要不可欠な無線システムである。
(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項	